

解読すすむ古代文字：マヤ文字

著者	八杉 佳穂
ページ	580-580
発行年	2009-04-20
URL	http://hdl.handle.net/10502/4558

解読すすむ古代文字——マヤ文字

八杉佳穂

▼3つの書体例。いずれも「9バクトゥン」(バクトゥンは期間の単位)



〈幾何体〉



〈頭字体〉



〈2つの書体の組み合わせも自由〉



〈全身体〉

▼音節文字と表語文字を使って「大修館」と書いた例



kan は表語文字、その他は表音文字。
na は音声補助符で kan の送り仮名のようなもの

マヤ文字は、主に3世紀から10世紀にかけて、グアテマラのジャングル地帯を中心にユカタン半島全域で用いられました。16世紀にスペイン人が到来したときにも、わずかながら文字知識が残っていたため、それをもとに19世紀から解読が試みられていますが、まだ解読途中です。とはいえ、もうすでにたくさんの表語文字と音節文字が発見されていますし、多くのテキストの意味がわかってきています。そのため、800万もいるという現代マヤ人たちのなかには、名前や本のタイトルなどにマヤ文字を使い始めている人たちがいるほどです。

マヤ文字には、幾何体と頭字体という同価の字体があり、両者は自由に交替できます(上の例の3つを参照)。それに加えて、全身体という複雑きわまりない文字も存在します。文字は、土器や絵文書などにも記されましたが、テキストの代表となるのは、石碑です。テキストはふつう日付があり、その日の出来事が記されています。長いテキストでは、最初に日付があり、それから何日後または前の日付があつて、その日の出来事が記される構造です。王の誕生、即位、結婚、征服、死亡などの王家の歴史が中心ですが、神話や儀式なども記されました。